

令和5年定例6月会議一般質問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質 問 の 相 手
江 川 春 朝	<p>佐世保～小値賀間のフェリー及び高速船の運賃について</p> <p>平成29年度に創設された特定有人国境離島地域社会維持推進交付金により、特定有人国境離島地域の住人の航路運賃を本土のJR運賃並みに低廉化することが掲げられ、本町でも6年前の2017年より、運賃の島民割引がスタートした。</p> <p>その直後には、町民のみなさんの喜ぶ声が多く、歓迎された政策だった。だが、6年たった今、JR運賃まで進んだとはいえる状況ではない。</p> <p>①現在までの小値賀町の航路運賃低廉化事業における、その成果はどうか</p> <p>②燃料価格の高止まり、もしくは、更なる価格上昇がある場合、これまで通りの支援で十分か</p> <p>世界共通目標SDGs、第5の目標である男女間格差、ジェンダーギャップについて</p> <p>ジェンダー平等対策として長崎県では、男女共同参画基本計画等、格差解消の為、様々な取組を行っているが、日本という国自体がこの問題で世界に遅れを取っており、その中でも行政分野、政治分野での格差が際立っている。</p> <p>①SDGs第5の目標に対して、小値賀町としてどの様な取組みをおこなっているか。</p> <p>②小値賀町は、独自の何らかの目標を掲げているか。</p>	町 長
森 岡 正 雄	<p>高校存続問題に対する今後の対応について</p> <p>以前から1学年10人を切ると高校がなくなるかもしれないと言われてきた。</p> <p>現在の高校生の数は1年生10名、2年生7名、3年生6名の全校生徒23名。また中学生の数は1年生15名、2年生13名、3年生15名。小学校は1年生6名、2年生18名、3年生14名、4年生11名、5年生14名、6年生18名である（大島分校含む）。</p> <p>一見数字だけを見れば、暫くは大丈夫そうな印象を受けるものの、長期的な視点で見れば今以上に子供が減ることは避けら</p>	町 長

	<p>れず、最早待ったなしの状況である。</p> <p>現在離島留学に力を入れているようであるが、高校存続に向け今後どう対応し、安心して、出産・子育てができる小値賀町を実現するのか、具体的に聞かせていただきたい。</p> <p>更なる教育の向上に向けて、大規模校との連携を図れないか</p> <p>小中高一貫教育では、郷土学習や小さなコミュニティーならではの小値賀の特色を生かした教育ができており、その点は大変素晴らしいと感じている。</p> <p>しかしながら、大きなコミュニティーでしか学べないこと、体験できないことがあるのもまた事実である。そこで、都会の大規模校と提携し、生徒数の多い中での2泊3日程度の学校体験や、文化祭などで数百人の前で発表することは、小値賀では決して得られない経験になると考える。</p> <p>子供の成長に非日常的な体験は欠かすことはできず、今の小値賀の教育を更に一步推し進めると思うがどうか。</p> <p>学校敷地内、及び通学路の安全確保について</p> <p>中学校体育館そばに立ち入り禁止箇所がある。おそらくは旧校舎と体育館をつなぐ廊下であったと思うが、何故旧校舎を取り壊す際に一緒に撤去しなかったのか。学校敷地内に立入禁止箇所があるのはいいことだとは思えない。今後、撤去に向けて早急に計画を立てるべきと考えるが、どうか。</p> <p>また中村から船瀬までの通学路で、多数の猪の目撃情報が確認されている。他県では猪が人に襲い掛かるといった事例もあり、子供たちに被害が出る前に早急に対応するべきと考える。また蛇が出たりもしており、保護者が草刈りをしていると聞く。こちらに関しても、本来であれば町で対応すべきと考えるが、どうか。</p>	<p>教育長</p> <p>教育長</p>
<p>今 田 光 弘</p>	<p>町長が思い描く小値賀町のビジョン(夢)と重点課題、解決に向けての施策について</p> <p>町長は先の議会において、この先の4年間の町政運営について、安心して暮らせる環境づくりと活力あるまちづくりを目指すとして次の8項目について所信を表明した。</p> <p>①こどもの教育の充実と子育て支援</p> <p>②農漁業・商工観光業の振興と後継者対策</p>	<p>町 長</p>

	<p>③医師・看護師の確保による医療体制の充実 ④移住・定住・交流人口の増加による人口減少対策 ⑤デジタル社会を目指した環境整備 ⑥高齢者や子育て世帯に対する福祉施策 ⑦情報公開 ⑧町を支える人材の育成・後継者対策及び雇用の創出</p> <p>すべて重要な施策であり今までの路線の継承であるが、残念ながら本町にとって人口が減り続けているという最大の課題の抜本的な解決には至っていない。</p> <p>町長が柱と位置づける「町民あつての小値賀町」「町民が主役の小値賀町」の実現のため、本町が北松浦郡小値賀町として存続していくためにも、メリハリの利いた更なる積極的な施策の展開が必要で、今はもう待ったなしの時期に来ていると思う。</p> <p>また多くの町民、役場職員は、町民が一丸となってこの小さな町を守り続けるために、そのトップである町長のキャプテンシーと強いリーダーシップを求めている。</p> <p>このような中、町長が本町をどのような町にしたいのか(夢)、その夢を実現するための重点課題、それを解決するために特に力を入れて進めていきたい施策について具体的に伺う。</p>	
橋本 武士	<p>野良猫の苦情対策として</p> <p>飼い主のいない猫の増加による糞尿などの被害や、えさを与えて後始末をしないなど、猫を原因とするトラブルは全国でも問題となっています。</p> <p>私たちの生活に喜びと癒しを与えてくれる動物たちは今や家族の一員といわれています。特に猫においては基幹産業である農業にとっては益獣であり必要な存在です。</p> <p>人間の都合で不幸な犬や猫を増やさないためにも、不妊去勢手術は必要と考えます。理想としては生後半年ぐらいで不妊・去勢手術を受けることが重要です。この手術により、オス・メスとも、性的な欲求不満へのストレスから解放され、また、マーキングや異様な鳴き声、ほかの猫への攻撃などの欲求不満が原因の問題行動も予防できます。</p> <p>最終目的は、「望まれずに生まれてきた不幸な猫たち≡迷惑な飼い主のいない猫」を「地域猫」として管理し、「今以上に増やさないこと」と「生命を受けてしまった猫たちは、地域環境の中で、出来るだけ快適に長生きできるように」ということで</p>	町 長

	<p>す。</p> <p>しかしながら離島である本町にあっては動物病院もないことから佐世保などへフェリーで渡らなければ去勢、避妊手術も出来ず費用的にもかなりの負担となります。さらにオスの去勢手術は日帰りが可能ですが、メスの避妊手術は一泊する必要もあります。渡航費用、宿泊費はやむを得ずとも、せめて手術費の実費を町の予算から助成する仕組みが必要であると考えます。</p> <p>担当部署の職員様におかれましても大変苦慮されており、町民ファーストの行政を推進するうえでも決断していただきたいと考えます。</p>	
<p>小辻隆治郎</p>	<p>小値賀牛とおぢかメロンのブランド化について</p> <p>①畜産農家の中から肥育牛をブランド化したいとの要望が出ていることについてどう考えているのか</p> <p>②メロンのブランド化により安定した高収益を望めるのではないか。メロン栽培者の後継者不足が問題となっているが、農業を専攻する若い人材数名を地域おこし協力隊として採用してはどうか</p> <p>③小値賀町が持続可能な街づくりに成功するためには、ブランド作りや地域おこし協力隊を活用するなど、町を活気づける政策が最重要と考えるが、町長の意気込みについて伺う。</p> <p>斑沖の定置網の問題について</p> <p>①今年1月に損傷した斑沖の定置網は、修繕不可能な状況にあると聞いている。町の対応策について伺う。</p> <p>②小値賀町と漁協を含めた、県、国との協議はどのような状況なのか、ご説明をお願いします。</p> <p>③定置網の全損について何が問題だったのか、問題があったとすれば解決する対策があるのか伺う。</p>	<p>町長</p>

立石光助	<p>災害に強い農業政策について</p> <p>IPCC第6次評価報告書（AR6）によると、強い台風が2040年までに13%増加すると報告されています。</p> <p>今後も安心・安全に暮らしていくためには災害への備えが大変重要ですが、その中でも、町の産業と食の基盤である農業、とりわけ施設園芸部門については、ビニールハウスへの被害や、苗の倒伏・塩害による収穫量の大幅減など、継続の危機に陥る可能性が高い部門です。</p> <p>防風林・ネットの対策も十分とは言えないため、例えば以下のような追加の対策が考えられますが、今後の災害に対する農業政策について、町長のお考えを伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none">①振興作物を塩害に強い品種や異なる作物へ移行②圃場を風の当たりにくい好適地へ集約するよう整理③台風襲来時に直掛けするネットの購入補助④半農半X（1つの作物や農業だけに依存しない暮らしの提案）の推進	町長
------	---	----